



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

町田多摩境雲母保育園



テーマ【 植物の季節の移り変わり 】

設定した理由・背景

子どもたちは毎日近隣の公園へ行き、興味を持って散策を楽しんでいるので、植物の季節の移り変わりをテーマとした。花や葉、根等の形の違い、季節での植物の種類の違いに興味を持って観察してもらいたいと考え活動を行った。

用意した環境設定

- ・図鑑
- ・カメラ
- ・持ち帰り用のビニール袋

活動のあゆみ

- 4～5月 公園にて春の自然散策。
- 6～9月 公園にて夏の自然散策。
- 7月 公園で拾った植物で押し花作り
- 8月 お泊り保育で奥多摩の自然散策
- 9～11月 公園にて秋の自然散策。
- 11月 拾った落ち葉を使った制作活動。
- 12～2月 公園にて冬の自然散策。

✧探究活動の実績✧

公園での散策の時間では子どもたちに何か一つでも植物に注目するように伝えてから散策を行った。活動当初は花や葉の大きさ、数、色、形はどうか。今の時期はどのような花が咲いているかなど具体的に観察するポイントを交えながら声掛けを行っていた。

観察時、子どもたちは「この花はいっぱいある」「このクローバーは葉っぱが3枚」と花びらや葉の数に注目する児がおり、それに対して保育者は他の花びらや葉っぱの数も数えてみるよう伝えた。衣服に付く葉を見つけた子どもたちは面白がって何枚も葉を衣服に付ける姿が見られ、保育者と一緒に葉の様子に注目し、の葉っぱをよく見ると毛のようなものが付いている事を発見した。5歳児は近隣の公園の葉や花を押し花にする体験を行った。自分で押し花の構図を考え、完成すると嬉しそうにしていた。また、お泊まり保育では奥多摩の山にある自然に触れ、普段ではあまり見られない植物に関心を示していた。何度も「先生見て！」と目を輝かせて発見を喜び、じっくりと観察する姿が見られた。秋から冬にかけては木の実や落ち葉が沢山落ちており、それらを使って子どもたち同士でおままごとなどのごっこ遊びを楽しんでいた。

年間を通して季節の移り変わりで自然の変化が感じられたと思う。始めは保育者から自然の様子に注目するよう声を掛けてきたが、だんだん子どもたちから発見を口にする様子が見られた。



秋の制作を行う様子。



奥多摩の自然を集め、観察する様子。



春の自然に触れている様子。

まとめ

幼児は視野が広く、自然が好きなので年間を通して発見や遊びを楽しめたと思う。次年度以降ではその植物について調べてより理解したり、自然物を使った玩具や飾り等を作ったりする等、より知識を深めたり想像力を育んだりできるような活動を取り入れていけると良いと感じた。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

町田多摩境雲母保育園



テーマ【 異文化交流 】

設定した理由・背景

世界には沢山の言語に溢れている。慣れない言葉を介して「通じた」という成功体験を積む事は子どもたちの自信に繋がり、相手の意図を汲み取ろうとする思いやりの心を育む一助になると考えた。

用意した環境設定

- ・外国人講師によるオンラインレッスン
- ・プロジェクター一式
- ・スクリーン・ノートパソコン
- ・クレヨン

活動のあゆみ

2025年4月～2026年3月 毎週木曜日に行う。

3歳児 10:30～10:45

4・5歳児 10:45～11:00

4・5月 果物の色と形

6・7月 身近な物の名前を知る

8・9月 空を見上げよう

10・11月 身近なものに親しみを持つ

12・1月・2月・3月 動物と自分の体

✽探究活動の実績✽

子どもたちは、普段の生活の中で自分の好きな食べ物や遊びなどを共有して話すことが多くその中で講師の好きなものについて疑問に持つ事が増えた。しかし、伝え方が分からず講師に質問する事を躊躇う様子が見られた。その為、毎回同じ疑問文(※What～do you like?)で聞く方法を子どもたちに伝え、自分の質問したい単語を保育者が調べ、一緒に発音しながら質問する所から始めていった。

最初は自分の質問した単語の発音が難しく、上手く伝わらない事が多かった。しかし、少しずつ英単語の理解が深まり、定型文を使う事で徐々に自信を深め積極的に発信できるようになった。また、子どもたちの探究心は高く、1つのカテゴリーに絞られる事なく質問したい内容が多かった。その為どんな英会話の内容でも英単語を覚えて使いたいという意欲が感じられた。特に「果物」と「色」については普段の生活に馴染み深く、発音しやすいものでもある為最も積極性が高かった。

英会話で習ったもの以外の単語はどのように発音するのか疑問に持ち、園にある絵本図鑑で調べていた。講師に上手く伝わらないと自分の衣服の色で伝えたり、果物の大きさをジェスチャーで表す等の工夫も見られた。また、普段の活動の中でも「これは英語なら何て言うかな？」と聞き、英語が身近な存在だと思えるような環境作りを行った。講師の回答が既習の英単語であると、保育者の補助なく理解することが出来、意欲がさらに向上していた。講師は全て英語で話す為理解が難しい点もあるが、イラストや動きを見ながら子どもたちが自分で伝えていきたい様子があった。



音楽に合わせてダンスをする様子



自分のカードを講師に見せている様子



講師の指示するカードを探している様子

まとめ

英語を通して自分の思いが伝わる喜びを知り、子どもたちの表情には確かな自信が溢れている。講師とのコミュニケーションを取ろうとする主体的な姿勢を大切に育むために、日常の保育の中でも英語クイズや英語の絵本の読み聞かせなど楽しみながら親しむ環境を取り入れていきたい。保育者として子どもたちが伝えたいと願う気持ちを尊重し、共に学び、喜びを分かち合う姿勢に努めたい。